

短歌

一六八

短歌

小島一誠

身延雜感

山を見て山と思ふはこの山の姿雄々しき朝ぼらけかな
變り行く峯の木の色見る度に我が胸の上も筆に染む哉
ましませし庵の跡を訪ふ度に胸うるほさる我が祖師のかげ
濁れどもしぶきは白くたばしりて心しのぶる此の川の水

七面山にて

我も亦雲の上にて眺むれば富士の高峯もわが友のごと

寄宿舎にて

一室をわが住む家と思ひなば淋しき内に戀しさわきぬ
室毎に茶など沸して招き合ふあたりゆかしき初秋の午后